

## W37b Spektr-RG 衛星搭載 X 線カロリメータ分光装置 SXC

藤本龍一(金沢大)、大橋隆哉、石崎欣尚、江副祐一郎(首都大)、満田和久、山崎典子、篠崎慶亮、竹井洋、中川貴雄、杉田寛之、佐藤洋一(JAXA)、村上正秀(筑波大)、田代信(埼玉大)、北本俊二(立教大)、玉川徹、川原田円、三原建弘(理研)、R. L. Kelley、C. A. Kilbourne、F. S. Porter (NASA/GSFC)、D. McCammon (Wisconsin 大)、J.-W. den Herder (SRON)

Spektr Röntgen Gamma (SRG) 衛星は 2012 年頃にロシアによって打ち上げが予定されている X 線天文衛星であり、主検出器として 0.3–10 keV の帯域で全天サーベイを行なう eROSITA と、日米蘭独国際協力による X 線マイクロカロリメータを用いた精密分光装置 SXC (SRG X-ray Calorimeter) が搭載される。SXC のカロリメータアレイは Suzaku XRS のスペア (6 × 6 アレイ) で、エネルギー分解能は 6 eV (goal 4 eV)、視野が 11' × 11' と広いのが特徴である (1 ピクセルは 1.8')。冷却システムは NeXT 衛星のプロト品を使用する (篠崎他、本年会)。打ち上げ後最初の半年間は SXC を主として銀河団や超新星残骸などの個別天体のポンティング観測を行ない、その後 4 年かけて eROSITA を主として全天サーベイを実施する。全天サーベイ期間も SXC は観測を続け、高温星間ガスの全天分光データを取得する。

本講演では、SRG 衛星と SXC 検出器について説明し、SRG 衛星の観測計画と目指すサイエンスについても簡単に述べる。